

メッセージ

紫原小学校 五年 池ノ上 冬夢

「ホタホタホタッー」

これは、特攻隊員が、南の空へ飛び立ち、その若く尊い命が失われた時にモールス信号で打電した最後のメッセージです。

「我、空母に突入す。」

という意味です。僕は、この信号を聞いた時、特攻隊員の最後のメッセージがこれかと思うと、残念な気持ちと切ない気持ちで心が苦しくなりました。自分が絶命する時に、もっとたくさん伝えたい事はあつただろうし、言いたい事を告げずに亡くなった特攻隊員はきつとくやしかっただろうと思います。

夏休みの自由研究で、僕は特攻隊について調べました。一度、テレビで観た事があり、興味があり、僕の祖父の住んでいる鹿屋市中でも特攻の出撃が多かった所なので、祖父にお願いして戦跡めぐりをしてもらいました。とても夏の日差しの強い日で、戦跡をめぐると暑くて大変でした。神雷部隊の宿营地、海軍基地跡、弾薬庫跡、地下電信室、平和公園、自衛隊の資料館など何度も鹿屋には泊まりに行っているけど、こんなにたくさん戦跡があるとは知らなかったし父母も初めて知ったそうです。資料を集めたり調べたりする中で、隊員たちの生活していた場所は今は田んぼになっていたり、住宅地になっていたり戦争がこの場所であつたとは思えないほどのどかな風景でした。当時の隊員たちの生活の様子、出撃する前日にはかみの毛を切り、ひげをそり、ドラム缶のお風呂に入って体をきれいにしたそうです。自分が明日死ぬと分かって入るお風呂はどんな気持ちで入つたのだろうかと思ひます。出撃命令の出された同期の隊員から、

「おれはまだ死にたくない。頼むよ、おれと代わってくれ。」

と言われたりもしたそうです。特攻隊員は笑顔で出撃したと思わせる写真がありますが、お国のためにと笑顔で出撃した人もいたかもしれませんが、平静にふるまっていただけで不安でいっぱいだった事と思うし、特攻で戦死することに疑問を持ったままいかなくはいけなかつた隊員の気持ちを考えると、くやしい気持ちでいっぱいです。次は自分の番かと思ひ見送る隊員、仲間の最後のメッセージを受け取る電信室の隊員の気持ち。戦争というのは無駄な殺し合いだし、人の心もおかしくなつて命を軽くみるようになる恐ろしいものだという事を感じました。

今日は八月十五日。終戦から七十五年が経ちました。僕の祖父も戦争は体験していません。戦争を語る人も少なくなつてきています。でも、戦争があつた事、特攻という悲しい歴史を絶対に忘れてはいけないうし、二度とくり返してはいけないうと強く思ひます。

「平和が一番」

このメッセージを僕は語つていきたいです。